

委託事業実施内容報告書

平成25年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業 【地域日本語教育実践プログラム(A)】

受託団体名 兵庫日本語ボランティアネットワーク

1. 事業名称: 「生活者としての外国人」が地域のことを学習するための事業

2. 事業の目的:

兵庫県では阪神淡路大震災(1997)以降17年間に地域日本語教室が各地に生まれ(約80)、ボランティアが中心となって「生活者としての外国人」に日本語学習支援を行ってきた。その結果、彼らが安心して生活でき、地域社会に参加できる体制も徐々に整ってきた。しかし、地域日本語教室での支援法および支援法が文型積み上げ型が中心になっていることは否めない事実である。本事業ではそのことを打開するために以下を実施する事を目的とする。

(1)「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案の趣旨を活用するために、地域に根ざした教材(「こうべを楽しもう」H. 20神戸市国際協力交流センター編:H. 20文化庁日本語教育事業)を改訂する。

(2)上記の教材を活用して、神戸市内在住の「生活者としての外国人」を対象に、日本語学習活動を行う。学習者が日常生活の中で自ら学びうるような学習方法を自らが作り上げていくような(=日本語自主学習)システムを構築することを目的とする。

(3)過去6年間本ネットワークが文化庁委託事業として実施した「退職教員等対象の日本語教育指導者養成講座」のノウハウを活用するとともに、退職教員等のキャリアを活用して日本語学習のための協働者となるべき人材を育成する事を目的とする。

3. 事業内容の概要:

(1)本事業で開発する教材を用いた活動を兵庫県内(主に神戸市内)の地域日本語教室で活用してもらう。

(2)上記の教材内容などのノウハウを兵庫県内の地域日本語学習支援グループおよび支援者に啓蒙し、地域に根ざした教材作成の一助とする。

(3)教室活動:上記の教材を活用し、学習者が神戸市住民としてよりよい生活を送れるような支援を行う。

(4)人材育成:退職教員等のキャリアを活かし本講座修了後、兵庫県内の地域や学校で支援活動ができるようにする。

4. 運営委員会の開催について

【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題	検討内容
1	H25年5月23日 15:00~17:00	2時間	(公財)兵庫県国際交流協会	石光潤子・橋倉正司 水野マリ子・斉藤美穂 長嶋昭親・湯口恵 延原臣治 以上7名	・本事業文化庁へ提出企画書内容の確認 ・本事業実行に当たり3事業における日程 ・本事業実行に当たり3事業の人的役割	・当初申請段階での予算から1割削減されたが、予定通り実行していく事を決定 ・教材、「こうべを楽しもう改訂版」を作成しながら、並行して日本語教室における学習内容を「こうべを楽しもう旧版(=カリキュラム案との共通部分あり)を活用していく事を確認 ・日程として教材作成は5月に編集委員を決定し改訂方針を決め、改訂原稿執筆者も決める事を承認した。同じく日本語教室開講は9月~12月の15回2クラスで行う事を決定した。また人材養成は11月から翌年の2月まで11回講座とする事を決定した。 ・3事業の実行責任者として、教材は長尾正康、教室は延原臣二、人材養成は高橋博子(いずれも兵庫日本語ボランティアネットワーク役員)が行う事を決定した。
2	H26年3月20日 15:00~17:00	2時間	(公財)兵庫県国際交流協会	石光潤子・橋倉正司 水野マリ子・長嶋昭親 ・湯口恵 延原臣治 以上6名	・3事業についての結果報告と承認 ・3事業についての評価 ・今後の課題	・日本語教室:初級クラスにおいて消防署見学し、実習できたこと、中上級クラスにおいて学習者が自分の学習したことについて自分で調べたりそれをまとめて発表できて自律学習の実践ができた。 ・人材育成では教職経験者が多く受講し修了した事は今後彼らが地域、学校での活動が期待できる。 ・教材作成では「こうべを楽しもう改訂版」が完成し、旧版に比べより地域と密着した内容となり、またインターネットでの利用も可能となった。 以上のような評価がされ、課題としてはいかにこの実践をこれから地域日本語教室に引き継いでいくか、養成した人材の多くが地域、学校で活動できる手だてを考えていく必要がある。また教材「こうべを楽しもう改訂版」についてはいかにその存在を地域日本語教室や日本語学習者に知らしめていくかが課題である事を確認した。

5. 日本語教室の実施

(1) 講座名称: 日本語教室「神戸を楽しもう」

(2) 目的・目標:

「生活者としての外国人」が安心して自分らしく生活するための学習活動を通じて、自ら学び行動クラスはレベル別に2つに分けた。以下、初級クラスを「日本語教室①」、中上級クラスを「日本語教室②」とする。

日本語教室①は、基本的な文型の習得とゆるい自律学習の方法を取り入れる。

日本語教室②では、学習者に自律学習について説明をし、学習者が意識的に自律学習を行える仕掛けを取り入れる。

(3) 対象者: 神戸市に在住または勤務する「生活者としての外国人」

(4) 開催時間数(回数): 60時間 (全30回)

(5) 使用した教材・リソース: 『神戸を楽しもう』及び文化庁「カリキュラム案」を参考にした自主制作教材

(6) 受講者の総数: 34人

(出身・国籍別内訳)

日本語教室①: 16名(中国・5人、韓国・2人、台湾・1人、インドネシア・3人、モンゴル・1人、ポーランド・1人、カナダ・1人、ベトナム・1人、タイ・1人)

日本語教室②: 18名(中国・8人、韓国・4人、台湾・2人、インド・1人、ミャンマー・1人、ブルガリア・1人、ベトナム・1人)

(7) 日本語教室の具体的内容

日本語教室① 初級クラス

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	授業概要	講師又は指導者名	補助者名
1	H.25年9月3日 10:00~12:00	2時間	神戸国際協 力交流セン ター	12人	中国(5人)、韓 国(2人)、台湾 (1人)、インドネ シア(2人)、モン ゴル(1人)、ポー ランド(1人)	自己紹介 オリエンテー ション	①名前札を作成し、簡単な自己 紹介の方法を教え、実践する。 ②学習者カードに記入させる。 ③『神戸を楽しもう』の教材の中 からやってみたい項目を選ばせ る。 ④リラックスさせるためにしりとり ゲームをする。 ⑤今日行ったことを振りかえる 「振り返りシート」を記入。	後藤ひろ子	高橋博子 片山千鶴 明里悦子
2	H25年9月19日 10:00~12:00	2時間	神戸国際協 力交流セン ター	7人	中国(2人)韓国 (1人)台湾(1 人)タイ(1人)ベ トナム(1人) ポーランド(1 人)	住所を覚える	①新しく加わった学習者の自己 紹介 ②学習者が住んでいる神戸や兵 庫県について、その位置を地図 から確認させる。 ③自分の住所を書かせる。 ④書けない学習者を指導する。 ⑤振り返りシートの作成	後藤ひろ子	高橋博子 片山千鶴 明里悦子
3	H25年9月17日 10:00~12:00	2時間	神戸国際協 力交流セン ター	9人	中国(5人)韓国 (1人)インドネ シア(2人)ポー ランド(1人)	食べ物を知る	①書き取りの練習 ②持参したスーパーやレストラン のチラシを見せて、ことばの意味 を考えさせる。 ③神戸の食べ物について話し合 う。 ④食品を買うロールプレーをす る。 ④レストランの予約をするロー ルプレー ⑤振り返りシートの作成	後藤ひろ子	高橋博子 片山千鶴 明里悦子
4	H25年9月24日 10:00~12:00	2時間	神戸国際協 力交流セン ター	8人	中国(5人)韓国 (2人)ベトナム (1人)	買い物をする	①買いたいものを考えてもらった ②その商品を買う場所(施設・売 り場)を考える	後藤ひろ子	高橋博子 片山千鶴 明里悦子
5	H25年10月1日 10:00~12:99	2時間	神戸国際協 力交流セン ター	8人	中国(5人)韓国 (1人)インドネ シア(1人)カナ ダ(1人)	市役所訪問	①市役所と区役所の仕事につい て話し合う ②市役所へ向かう ③市役所の展望階から神戸の街 を眺める ④自分の家があるところ を説明してもらう ⑤教室に戻 り復習する	後藤ひろ子	高橋博子 片山千鶴 明里悦子
6	H25年10月8日 10:00~12:00	2時間	神戸国際協 力交流セン ター	8人	中国(4人)韓国 (1人)インドネ シア(1人)ポー ランド(1人)カ ナダ(1人)	100円ショッ プで買い物	①三宮駅に集合してもらい ②10 0円ショップに入る ③買い物を する ④学習者の一部は薬局に 立ち寄り買い物 ⑤教室に戻る ⑥買ったものを見せて説明する ⑦振り返りシートに記入	後藤ひろ子	高橋博子 片山千鶴 明里悦子
7	平成25年10月 15日 10:00 ~12:00	2時間	神戸国際協 力交流セン ター	6人	中国(4人)韓国 (1人)ポーラン ド(1人)	ゴミの分別	①いろいろなゴミとゴミ袋を並べ、 受講者に分別してもらった ②全員で正しいかどうか話し合っ た ③分別するうえでの注意を説明し た	後藤ひろ子	高橋博子 片山千鶴 明里悦子

8	H25年10月22日 10:00～12:00	2時間	神戸国際協力交流センター	8人	中国(4人)ベトナム(1人)インドネシア(1人)ポーランド(1人)カナダ(1人)	安全・防災	①ひつたりへの注意を実演した ②119番通報の仕方を説明した ③自転車に乗るルールの説明 ④防災カードに記入	後藤ひろ子	高橋博子 安達淳子 明里悦子
9	H25年10月29日 10:00～12:00	2時間	神戸国際協力交流センター	8人	中国(4人)韓国(1人)インドネシア(1人)ポーランド(1人)カナダ(1人)	行きたいところ①	①どこに行きたいか話し合った ②行きたいところが近い人でグループ分けした ③行きたいところについて調べた	後藤ひろ子	高橋博子 片山千鶴 明里悦子
10	H25年11月5日 10:00～12:00	2時間	神戸国際協力交流センター	7人	中国(4人)韓国(1人)インドネシア(1人)ポーランド(1人)	行きたいところ②	①行きたいところの調査 ②グループごとに発表 ③全員で質問と答弁お練習	後藤ひろ子	安達淳子 明里悦子
11	H25年11月12日 10:00～12:99	2時間	神戸国際協力交流センター	7人	中国(3人)韓国(1人)インドネシア(1人)ポーランド(1人)カナダ(1人)	病院	①自宅近くにある病院・医院を図に書く ②順番に説明する ③病気の症状と体の部位を説明する	後藤ひろ子	高橋博子 片山千鶴 明里悦子
12	H25年11月19日 10:00～12:00	2時間	神戸国際協力交流センター	7人	中国(4人)韓国(1人)インドネシア(1人)ポーランド(1人)	消防署見学	①中央消防署に案内 ②119番通報の練習 ③各種消防車の見学 ④消火訓練	後藤ひろ子	高橋博子 片山千鶴 明里悦子
13	H25年11月26日 10:00～12:00	2時間	神戸国際協力交流センター	6人	中国(3人)インドネシア(1人)ポーランド(1人)カナダ(1人)	病院・薬 日本の行事	①病院の受け付けや問診の時の対話練習 ②薬の説明 ③日本の行事の説明	後藤ひろ子	高橋博子 片山千鶴 明里悦子
14	H25年12月3日 10:00～12:00	2時間	神戸国際協力交流センター	4人	中国(2人)韓国(1人)ポーランド(1人)	復習	①これまでの講座で学習したことや新しく知ったことばを書いてもらった ②最終週で発表するテーマを「日本と自分の国の行事」と決めた	後藤ひろ子	高橋博子 片山千鶴 明里悦子
15	H25年12月10日 10:00～12:00	2時間	神戸国際協力交流センター	5人	中国(3人)韓国(1人)ポーランド(1人)	発表。修了式	①日本とそれぞれの国の行事について発表 ②消防署見学のビデオを見る ③修了式	後藤ひろ子	高橋博子 片山千鶴 明里悦子

日本語教室② 中上級クラス

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	授業概要	講師又は指導者名	補助者名
1	H25年9月4日 10:00～12:00	2時間	神戸国際協力交流センター	13人	中国(5人)、韓国(3人)、台湾(1人)インド(1人)、ミャンマー(1人)、ブルガリア(1人)	・オリエンテーション ・自律学習についての説明	①これから一緒に学習するメンバーを知るための自己紹介(クラスメート、スタッフ) ②オリエンテーション ③自律学習についての説明(他の教室との違い)	尾形文	許智仁
2	H25年9月11日 10:00～12:00	2時間	神戸国際協力交流センター	15人	中国(8人)韓国(2人)台湾(1人)インド(1人)ミャンマー(1人)ベトナム(1人)	・クラスメートの国を知る ・発表の準備	①クラスメートの国旗について ②グループワーク(1回目の発表のテーマを考える)	尾形文	許智仁
3	H25年9月18日 10:00～12:00	2時間	神戸国際協力交流センター	12人	中国(7人)韓国(3人)台湾(2人)ミャンマー(1人)	・発表に向けて	①ことば「旬」 ②発表で使う日本語(語彙、表現) ③グループで発表の準備	尾形文	許智仁
4	H25年9月25日 10:00～12:99	2時間	神戸国際協力交流センター	11人	中国(6人)韓国(3人)台湾(1人)ベトナム(1人)	・発表に向けて	①発表用の原稿の作成 ②発表用のポスター作成 ③発表を聞く時の態度について	尾形文	許智仁
5	H25年10月2日 10:00～12:00	2時間	神戸国際協力交流センター	12人	中国(6人)韓国(3人)台湾(1人)ベトナム(1人)	・第1回発表	①発表の順番決め(くじ引き)②発表③質疑応答	尾形文	許智仁
6	H25年10月9日 10:00～12:00	2時間	神戸国際協力交流センター	6人	中国(3人)韓国(1人)台湾(1人)ミャンマー(1人)	・気象情報のことば・次回の発表の準備	①台風接近の注意をする ②気象の関す語彙や表現 ②次回の活動を定める(カラオケに決定) ③カラオケを探す宿題を出す	尾形文	許智仁
7	H25年10月16日 10:00～12:00	2時間	神戸国際協力交流センター	8人	中国(6人)韓国(2人)	・カラオケ	①カラオケの準備(店の決定、みんなで歌う歌の練習、一人で歌う曲目を発表)	尾形文	許智仁

8	H25年10月23日 10:00~12:00	2時間	神戸国際協力交流センター	9人	中国(5人) 韓国(3人) ミャンマー(1人)	・カラオケ	①カラオケ ②みんなで歌う♪上を向いて歩こう♪ ③一人ずつ歌う	尾形 文	許 智仁
9	H25年10月30日 10:00~12:00	2時間	神戸国際協力交流センター	6人	中国(3人) 韓国(1人) 台湾(1人) ミャンマー(1人)	・次回の発表に向けて	①次回の発表のテーマを決める(大テーマは「日本に望むこと」) ②グループワーク(個別のテーマを決めるためのマインドマップ作成)	尾形 文	許 智仁
10	H25年11月6日 10:00~12:00	2時間	神戸国際協力交流センター	6人	中国(5人) 韓国(1人)	・メタ学習・発表の準備	①メタ学習(自分の学習を意識する・・・リソース、方法、学習の機会) ②発表の準備(原稿作成)	尾形 文	許 智仁
11	H25年11月13日 10:00~12:00	2時間	神戸国際協力交流センター	6人	中国(5人) ミャンマー(1人)	・第2回発表	①発表を聞く前に(他の人の発表を学習リソースと捉えるために) ②発表	尾形 文	許 智仁
12	H25年11月20日 10:00~12:00	2時間	神戸国際協力交流センター	7人	中国(5人) 韓国(1人) ミャンマー(1人)	・第2回発表の続き	①発表の続き②来週の活動を定める(ストレス解消の場とする)	尾形 文	許 智仁
13	H25年11月27日 10:00~12:00	2時間	神戸国際協力交流センター	5人	中国(3人) 韓国(1人) ミャンマー(1人)	・第3回発表	①発表(この場をストレス発散の場とし、いい事を言ってもらおう)	尾形 文	許 智仁
14	H25年12月4日 10:00~12:00	2時間	神戸国際協力交流センター	7人	中国(5人) 韓国(1人) ミャンマー(1人)	・今後の学習方法について・教室の振り返り	①学習者の要望に応え、日本語学習の方法についてブレインストーミング ②今回の教室の振り返り③来週の計画	尾形 文	許 智仁
15	H25年12月11日 10:00~12:00	2時間	神戸国際協力交流センター	7人	中国(6人) ミャンマー(1人)	・神戸散策・修了式	①神戸散策 ②修了式	尾形 文	許 智仁

(8) 受講者の募集方法

神戸市内の主な日本語教室にチラシを送るとともに、神戸市国際協力交流センターと兵庫県国際交流協会それに、兵庫県の子ども多文化センターの連絡ルートで学習者にPRしてもらった。また、兵庫日本語ボランティアネットのホームページでもPRした。(別紙:募集チラシ 日・中・韓・英)

(9) 特徴的な授業風景

日本語教室①

11月19日 初級12日目「消防署見学」： 駅から歩いて中央消防署に向かった。消防署の仕事について係官から説明してもらった後、119番のかけ方を実習した。相手は実際に110番を受けていた女性消防官とあって、迫力があるやりとりになった。まず「火事」か「救急」かを伝えることが大事で、次いで「場所」を伝える事が必要と説明された。外国人にとって、自分の家の住所を覚えるのは可能だが、知らない場所の説明は難しいので、周りにいる日本人と代わることや、近くのお店の名前を知ることが役に立つことが理解できた。続いていろいろな消防車を見学し、実際に消防車に乗せてもらった。狭い車内に多くの消火器具が積まれていることがわかった、そして消火器を使つての消火訓練を体験したが、消火液が出るのはわずかに10秒足らずであるため、狙いを決めて消火することの大事さを知った。

日本語教室②

10月2日 中上級5日目「学習者の発表」： 学習者が自分たちで選んだテーマごとに4つのグループに分かれ、模造紙に書きこんだり、プロジェクターを使ったりして発表した。

Aグループは「お金」がテーマ。中国と韓国のお金を張り出し、日本円と換算しての金額や特徴を説明した。中国の紙幣のデザインには毛沢東が使われ、韓国では芸能人もいる等お国柄が出ていた。

Bグループは「ファッション」、今年の秋冬のファッションの予想をした。

Cグループは「やせる」がテーマ。中国とベトナムとも食べ物と運動によって太らないように努力していることが説明された。中国では雑穀を多用するのが「おすすめ」だという。

Dグループは、美容室に行っても自分の思ったヘアスタイルを伝えることができないという悩みから、どのようにすれば自分の思っているヘアスタイルが美容師に伝わるかということを考えて発表した。簡単な日本語で表現する方法や、写真やスマホなどを持っていき、日本語を知らなくても美容師に伝わる方法も考えていた。

これらのテーマは、「生活の中で困っていること」という大テーマをもとに、学習者がグループで意見を出し合いながら決めたものである。発表テーマが決まってからも、サーチしにくいとか、少し調べれば容易に解決する問題である、などという理由で、発表のテーマが二転三転するグループもあった。

(10) 目標の達成状況・成果

当初34人の受講者がいたが、「文法を教える」普通の教室と思って申し込んだ人も結構いたようで、2回目以降出席者は減った。ただ最終的には16人に修了証を渡すことができ、一定の成果をあげることができた。

日本語教室①

初級クラスでは、発表の仕方や内容・文章をチェックすることによって、教室に参加する前より着実に日本社会とつながってきたと考えられる。このクラスでは、文型に即した会話練習を主とした活動を行ったが、自律学習という点では、発表の調査のためのリソースを提示するというところを取り入れた。また、わからないことを自分で調べるといふことに関して定着できたと思われる。

日本語教室②

中上級クラスでは、クラス形式に自律学習のどのような方法が導入可能かということ、指導者と補助者が試行錯誤しながら進めていった。

まず、補助者を韓国語母語話者である日本語学習経験者にすることで、学習者のロールモデルとなればよいということを狙った。

次に、初日には、学習者に自律学習を意識してもらために、これまで通ったことのある、あるいは現在通っている日本語教室での活動を振り返ってもらい、これから始まる日本語教室との違いを確認してもらった。

そして、15日間の活動においては、あらゆる選択の機会には自分で選択することが可能であることや、学習全体を意識的に捉える姿勢や、すべての事物が学習リソースとなるということなどを、事あるごとに学習者に伝えた。また、学習者のモチベーションを維持するために、発表の形式を変えたり、生活の中の問題点を発表のテーマとしたり、一人ではいけない場所(カラオケ店)へ行ってみるといふ活動を取り入れた。

以上のような活動を行った結果、最終日には「途中やめようかと思ったが、最後まで続けてよかった」といふ感想や、「これからは、ボランティアの先生(以前から通っている日本語教室)に自分からたくさん話そうにしたい」、「教室のみんなもリソースになることがわかった」などの学習者からの声が聞けた。

今回の中上級クラスで行った自律学習の仕掛けは、他の日本語教室で活動をする支援者に自律学習を広めるための具体的な内容を把握する機会ともなった。

(11) 改善点について

日本語教室①

本教室(初級クラス)では数人の補助者についてもらったが、授業をより効果的に進めるための工夫が必要と感じられた。自律学習という観点では、日本語能力が低い初級クラスにおいては、自律学習についての説明書を学習者の母語に翻訳したもの等を用意し、事前に説明しておいた方が良かったと思われる。

日本語教室②

学習者が日本社会の一員として生活できるようになるためには、学習者に自律学習を意識してもらうという試みは、今後、これまで以上に必要となるであろう。日本語教室②では、初日に日本語で自律学習についての説明を行ったり、15回の教室の中で学習者に伝える機会を指導者と補助者が意識的に設定したが、どのような仕掛けが有効であるかということについて学習者に関わる者たちが少しずつ体系立てていかなければならないと考える。そのためには、自律学習についての知識がある指導者を増やしていくことが喫緊の課題といえる。



日本語教室① 11回目消防署見学

日本語教室② 5日目 発表

6. 日本語教育を行う人材の養成・研修の実施

(1) 講座名称:退職教員など対象日本語教育指導者養成講座

(2) 目的・目標:自分の教職経験(キャリア)を活用し日本語指導を通して地域の多文化社会創生に貢献する人材を育成することを目的とし、地域日本語教室で中核的支援者として活動できるようになることを目標とする。同時に自己主導学習とはなにかとそれを支える言語学習アドバイジングの方法についてを知り、日本語学習支援に活用することができるような人材を育成する事を目標とする。

(3) 対象者: ①教職経験があり本講座終了後日本語学習支援活動に携わることを目指す方
②日本語学習支援経験2年以上のもの

(4) 開催時間数(回数) 33時間 (全 11回)

(5) 使用した教材・リソース:日本語ポータルサイト、「こうべを楽しもう」、講師の独自作成教材など

(6) 受講者の総数 :31人
(出身・国籍別内訳:日本 31人)

(7) 養成・研修の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	授業概要	講師又は指導者名	補助者名
1	H25年11月9日 13:30~16:30	3時間	コミスタこうべ	28人	日本	日本語学習者の学習動機	外国籍の住民に関する基礎知識。受講者の外国語学習を振り返ってみる。様々な学習方法	八木真奈美	高橋博子
2	H25年11月16日 13:30~16:30	3時間	コミスタこうべ	29人	日本	自己主導学習とは何か	能動的学習者と受動的学習者。能動的学習の必要性と流れ。自己主導学習における雰囲気づくりの大切さ	吉田晃高	高橋博子
3	H25年11月30日 13:30~16:30	3時間	コミスタこうべ	26人	日本	言語学習アドバイジングとは何か	グループに別れて学習者が自己主導型学習の力をつけるためにはアドバイザーはどうすれば良いかを討議する。言語学習アドバイジングができるようになるために自己主導型学習の意識化・経験のリソース化	小林浩明	高橋博子

4	H25年12月7日 13:30~16:30	3時間	コムスタこうべ	24人	日本	アドバイジングの言葉	アドバイジングの留意点。アドバイジングというコミュニケーションの特徴	小林浩明	高橋博子
5	H25年12月14日 13:30~16:30	3時間	コムスタこうべ	22人	日本	目標設定	目標設定のための能力観。学習者が自分にあった学習を考えるために「目標」の必要性	吉田晃高	高橋博子
6	H25年12月21日 13:30~16:30	3時間	コムスタこうべ	23人	日本	自己主導型学習に使えるリソース	リソースとは何か、リソースの種類、リソースの検索方法	青木直子 麻子軒	高橋博子
7	H26年1月11日 13:30~16:30	3時間	コムスタこうべ	25人	日本	学習活動のレパートリー	リソースの使い方を考えることはなぜ大切か。一つのリソースには無限の使い方がある。リソースの使い方を考えるコツ	青木直子 欧麗賢	高橋博子
8	H26年1月18日 13:30~16:30	3時間	コムスタこうべ	25人	日本	学習計画を建てる	自己紹介、目標設定、リソースを決める	尾形文	高橋博子
9	H26年1月25日 13:30~16:30	3時間	コムスタこうべ	24人	日本	自己主導型学習の取り入れ方(1) 『日本語ポートフォリオ』を壊す	日本語ポートフォリオを理解する。支持者としてアレンジしてみる。(調整する/手を加える)	吉田晃高	高橋博子
10	H26年2月1日 13:30~16:30	3時間	コムスタこうべ	24人	日本	自己主導型学習の取り入れ方(2) 「こうべを楽しもう」を使って	一人のできる学習とできない学習。具体的なリソースを使って活動内容を考える	尾形文	高橋博子
11	H26年2月8日 13:30~16:30	3時間	コムスタこうべ	20人	日本	自己主導型学習の取り入れ方(3) 子どもたちの自己主導型学習	子どもの持つ権利。子どもの言語習得。自己主導型学習の可能性	長嶋昭親	高橋博子

(8) 受講者の募集方法

- ①兵庫県教育委員会の県立学校長・地方教育事務所宛のMLにより、県内の高校、小中学校で退職予定者や日本語教育に関心のあるものに募集要項（別紙参照）を送りた。
- ②神戸新聞社に掲載を頼み10月27日に記事掲載
- ③多文化子ども共生センター（兵庫県教育委員会）のHPに募集要項を掲載

(9) 特徴的な授業風景

- ①第9回:1月25日実施 自己主導型学習の取り入れ方(1)『日本語ポートフォリオ』を壊す 講師:吉田晃高

『日本語ポートフォリオ』は第3回の「言語学習アドバイジングとは何か」で自己主導型学習をするためのツールであるという理解もと講義はすすんだ。受講者にはこれ迄ネットから『日本語ポートフォリオ』をプリントアウトしてもらい、手許に持たせていた。今回この講座で『日本語ポートフォリオ』を初めて見たという受講者がほとんどであった。共通参照レベルと「私は・・・ができます」の「聞くこと」、「読むこと」、「やりとり」、「表現」、「書くこと」のレベルをページをめくってどれがどれに当てはまるのかを考えるのはとても時間がかかり理解しにくいので、グループに分かれてこれらのものを切り張りして理解しやすいものを考えさせた。共通参照レベル:自己評価表のやや抽象的な表現をより具体的な表現をA1 A2を切って張り、分かりやすいように考えさせた。本のように閉じた『日本語ポートフォリオ』はまず見にくい、今自分が必要とするページを探すのに時間がかかる、共通参照レベル表は常にそばにおいて確認したいなどという要望が話し合うことによって明らかになった。グループワークでの各自の疑問が話し合う事によって具体化した。後日各班が作ったものを講師がまとめて受講者に配布した。

- ②第11回:自己主導型学習の取り入れ方(3)「子どもたちの自己主導型学習」 講師:長嶋昭親

第10回までは「生活者としての外国人」への支援法についての講義であったが、受講生の多くが教職経験者であることから、彼らが連れてきた「子どもたちへ支援法について講義をした。以下の内容で講義やワークショップを行った。

1. 子どもへの支援について:ワークシートを配布し、成人への支援の違いを討論した。
2. 子どもの権利について:世界人権宣言、人権規約、子どもの権利条約などで、子供が教育を受ける権利が保障され、その中でも言葉を学ぶ権利が保障されていることについて、講義をした。
3. 子どもの言語習得について:成人の第二言語習得とに違いについてワークショップで受講生に考えさせながら、臨界期や生活言語や学習言語の違いを講義した。
4. 略
5. 自己主導型学習の可能性:日本へ来たばかりの子どもや低学年の子どもには向かないかもしれないが、子どもの自主性を尊重し、子ども自ら自分の未来を開いていくための支援が可能である。たとえば進路ノートを作成させ、自らの目標を決め、達成のために何をしなければならないかを考えさせるなど...
6. 7. 8. 9 略
10. あなたはどんな支援をされますか:学習者が子どもたちの支援に携わる時、上記の事を念頭においてどんな支援をしたいか討論した。

(10)目標の達成・成果

現在教職にある人、又その他の受講者にとっても自己主導型学習は目新しいものであった。これ迄の教育現場での教師主導の学校教育を受けた者にはその必要性を理解するのにとまどいがあったようだ。毎回の受講の感想、最終日に講座全体についてのアンケートを見るとそのとまどいがかっきりと書かれていた。「学習支援」のイメージが「教える」という固定観念から学習者が自分で学習計画を立てる手伝いをしたりしてアドバイザーになることはなかなか理解困難であったようだ。回が進むにつれ学習活動でのリソース、その使い方を学び、自己主導型学習に使えるリソースの具体的な知識を得てから次第に自己主導型学習について考えを深めたようだ。講座では抽象的な課題から実際に「こうべを楽しもう」という具体的な講座内容へと進んだ。「こうべを楽しもう」の教材を使用して活動内容を考える回では迷いながらもいろいろな発表があった。多少なりとも自己主導型学習を理解できたような気がした。

(11) 改善点について

受講者の感想にもあったが学習者を相手に自己主導型学習の活動をやってみたいという希望があった。学習者に講座に参加してもらい実習してもらえば問題点や課題などおのずと出てくる、なにはともあれそれが一番だという意見が多かった。私も同感だがこれを実行することはいろいろと条件が揃わないといけなない。



5日目 講座より



10日目 講座より

7. 日本語教育のための学習教材の作成

(1) 教材名称:日本語教材『こうべを楽しもう』改訂版

(2) 対象:神戸に在住する「生活者としての外国人」で、日本語学習を希望する者。
日本語能力:初級～中級者を中心に、全ての外国人に対応。

(3) 目的・目標

神戸に住む「生活者としての外国人」が、安全、安心、快適な日常生活のために必要な情報を得ながら、楽しく日本語の学習が出来るよう、地域に根ざした教材の作成。
平成20年に文化庁・地域日本語教育支援事業で作成された教材「こうべを楽しもう」(旧版)を、時代の変化に対応して全面的見直し改訂を行う。

(4) 構成・総ページ数

教材(総ページ数118ページ)は次の4パートから構成:

- ・本編(55ページ): 学習者と日本語ボランティアが日本語学習を行う際に使える地域(神戸)に密着した情報や話題を満載。「教えるテキスト」ではなく、「テキストから提供される情報や話題について会話をし、共に調べたり、考えたりしながら学ぶテキスト」を意図する。
- ・資料編(39ページ): 日本語ボランティアが外国人と進める学習活動の参考となる資料を備える。授業の進め方を例示し、会話の参考となる資料、更なる情報を調べるに当たっての情報のアクセス先などを掲載。
- ・語彙編(11ページ): 各学習項目における新出語彙で、日常生活や会話でよく使用されると思われる重要なキーワードを抜き出してある。日本語にはルビを付け、6ヶ国語(英語、中国語、韓国・朝鮮語、ポルトガル語、スペイン語、ベトナム語)の対訳を掲載。
- ・索引(10ページ) = 利用の際の利便性を考え、各キーワードが出ている本編の場所を表示している。

(5) 教材作成会議の開催について

【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題	検討内容
1	H25年6月12日 18:00~20:00	2時間	神戸市青少年会館	水野マリ子、斎藤美穂 大和田邦子、平本岳志 玉田秀之、長嶋昭親 高橋博子、後藤ひろ子 長尾正康、延原臣二 尾形 文、(計11人)	・文化庁受託事業の理解 ・教材作成計画 ・教材作成(改訂)方針 ・具体的改訂内容	教材作成(改訂)方針計画を決定し、教材内容の具体的な検討に入った。

2	H25年7月10日 18:00～20:00	2時間	神戸市青少年会館	水野マリ子、斎藤美穂 大和田邦子、平本岳志 玉田秀之、長嶋昭親 高橋博子、後藤ひろ子 長尾正康、延原臣二 尾形文、(計11人)	・教材の具体的内容に関する審議	大項目として「医療」を追加することに決定。「コミと資源」は「生活」の中の1項目とする。各項目ともに旧版から大幅に改訂する。
3	H25年7月17日 15:15～17:30	2時間 15分	神戸国際協力交流センター	水野マリ子、斎藤美穂 大和田邦子、玉田秀之、 長嶋昭親、高橋博子、 後藤ひろ子、長尾正康、 延原臣二、尾形文 (計10人)	・文化庁の日本語教育の標準的カリキュラムとの整合性に関する検討。 ・教材の具体的内容に関する検討。 ・執筆担当者分担の決定。	教材の種々の項目に関する議論を通じて具体的内容を決定。 執筆分担を決定。
4	H25年8月20日 15:00～18:15	3時間 15分	神戸国際協力交流センター	水野マリ子、斎藤美穂 大和田邦子、平本岳志 玉田秀之、長嶋昭親 高橋博子、後藤ひろ子 長尾正康、延原臣二 尾形文、(計11人)	・内容構成に関する基本的編集方針について検討。	内容構成に関する具体的方針を決定。 写真や絵を多用し、参考資料を充実 他。 学習者や支援者が考える元となるテキストを目指す。
5	H25年9月3日 14:00～17:00	3時間	神戸国際協力交流センター	水野マリ子、斎藤美穂 大和田邦子、玉田秀之、 長嶋昭親、高橋博子、 後藤ひろ子、長尾正康、 延原臣二、尾形文 (計10人)	・各執筆者が考えた教材案について内容を審議。 ・9/3から始まった日本語教室の状況についての報告。	教材案を編集委員会で検討することにより、内容の推敲が進展。 同様な考え方を他の項目にも反映させていくことになった。
6	H25年9月18日 17:00～19:30	2時間 30分	神戸国際協力交流センター	斎藤美穂、玉田秀之、 長嶋昭親、高橋博子、 後藤ひろ子、長尾正康、 延原臣二、尾形文 (計8人)	・各執筆者が考えた教材案について内容を審議。 ・フォント、字のサイズ等の具体的フォーマット。 ・キーワードの選択基準についての検討。	教材案を編集委員会で検討することにより、内容の推敲が進展。 キーワードの選択に関する基本的考え方をすり合わせた。
7	H25年10月9日 17:00～19:30	2時間 30分	神戸国際協力交流センター	水野マリ子、斎藤美穂 大和田邦子、平本岳志 玉田秀之、長嶋昭親 高橋博子、後藤ひろ子 長尾正康、延原臣二 尾形文、(計11人)	・各執筆者が考えた教材案について内容を審議。 ・語彙選択基準について再検討。 ・今後の計画と進め方について協議。	教材案を編集委員会で検討することにより、内容の推敲が進展。 キーワードの選択に関する基準を決定。 今後の計画を策定。
8	H25年10月30日 16:00～18:20	2時間 20分	神戸国際協力交流センター	水野マリ子、斎藤美穂 大和田邦子、平本岳志 玉田秀之、長嶋昭親 高橋博子、後藤ひろ子 長尾正康、延原臣二 尾形文、(計11人)	・第2次原稿についての内容チェック校正。	教材原稿の校正進展。 資料編の内容と書き方についての統一化。
9	H25年12月18日 15:30～18:00	2時間 30分	神戸国際協力交流センター	水野マリ子、斎藤美穂 大和田邦子、平本岳志 玉田秀之、長嶋昭親 高橋博子、後藤ひろ子 長尾正康、延原臣二 尾形文、(計11人)	・第2次原稿についての内容の総合的点検校正。 ・掲載写真の版權元への許可申請。 ・神戸市の担当部局による内容の監査依頼。	教材原稿の校正進展。 神戸市の監査を受ける原稿の集約。 掲載予定の写真を整理して許可申請へ。

(6) 使い方

- ①地域日本語教室において：「生活者としての外国人」学習者が学びたいと思う内容を本テキストからダウンロードして、資料編（授業の例や関連する資料）を参考にしながら日本語学習活動を行う。
- ②学習者の自主学習：自分の興味のある項目をダウンロードしその中にある写真や絵を多用しながら、資料編にあるWEB情報を参考にしながら学習することができる。特に語彙にルビが付けられ、キーワードの対訳もあるので学習者自律学習に使うことが可能である。

(7) 具体的な活用例

具体的な授業の進め方については資料編に例示されている。

ここではその例を挙げておく。

- ①教材に示されている日本や神戸の状況について話し合い、その状況について学び、確認する。
- ②教材内容の日本(神戸)での状況について、外国人の母国の状況と比較したりしながら話し合い、談話を展開する。
- ③何か問題が発生した時に、どのようにすればいいか話し合う。
- ④より深い情報を得るために、この教材に示したインターネットサイトにアクセスして調べる方法を実践してみる。
- ⑤教材に載っている内容に関連したことを、実際に町に出かけて体験したり、確認したりする。

(8) 成果物:「こうべを楽しもう改訂版」(添付)

8. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的

兵庫県では阪神淡路大震災(1997)以降、17年間に地域日本語教室が各地に生まれ(約80)、ボランティアが中心となって「生活者としての外国人」に日本語学習支援を行ってきた。その結果、彼らが安心して生活でき、地域社会に参加できる体制も徐々に整ってきた。しかし、地域日本語教室での支援法および支援法が文型積み上げ型が中心になっていることは否めない事実である。本事業ではそのことを打開するために以下を実施する事を目的とする。

(1)「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案の趣旨を活用するために、地域に根ざした教材(「こうべを楽しもう」H. 20神戸市国際協力交流センター編:H. 20文化庁日本語教育事業)を改訂する。

(2)上記の教材を活用して、神戸市内在住の「生活者としての外国人」を対象に、日本語学習活動を行う。

学習者が日常生活の中で自ら学ぶような学習方法を自らが作り上げていくような(=日本語自主学習)システムを構築することを目的とする。

(3)過去6年間本ネットワークが文化庁委託事業として実施した「退職教員等対象の日本語教育指導者養成講座」のノウハウを活用するとともに、退職教員等のキャリアを活用して日本語学習のための協働者となるべき人材を育成する事を目的とする。

(2) 目標の達成状況・事業の成果

①日本語教室

「初級クラス」「中上級クラス」とも「生活者としての外国人」が安心して自分らしく生活できるための学習活動を通じて、自ら学び行動できることを目標にしたが、概ね達成できた。

特に初級クラスでは、「基本的な文型の習得とゆるい自律学習の方法を取り入れる。」ことが目標であったが達成できた。

中上級クラスにおいても「学習者に自律学習について説明をし、学習者が意識的に自律学習を行える仕掛けを取り入れる」ことが目標であったが達成できた。

②人材育成

「自分の教職経験(キャリア)を活用し日本語指導を通して地域の多文化社会創生に貢献する人材を育成することを目的とし、地域日本語教室で中核的支援者として活動できるようになることを目標とする。同時に自己主導学習とはなにかとそれを支える言語学習アドバイジングの方法についてを知り、日本語学習支援に活用することができるような人材を育成する事を目標としたが、11回の講座により、その目標を達成した。今後受講生が地域や学校での活動に期待する。

③教材作成

神戸に住む「生活者としての外国人」が、安全、安心、快適な日常生活のために必要な情報を得ながら、楽しく日本語の学習が出来るよう、地域に根ざした教材の作成。

平成20年に文化庁・地域日本語教育支援事業で作成された教材「こうべを楽しもう」(旧版)を、時代の変化に対応して全面的見直し改訂を行う。」ことが目標であったが、改訂版が完成しその目標を達成した。

(3) 標準的なカリキュラム案の地域での活用について

カリキュラム案をどのように活用し、どのような成果が得られたか。

①日本語教室:学習者が「こうべを楽しもう」の項目から選んで自ら学習し発表していくことを目指したが、「カリキュラム案」と一致するテーマも多く、指導者が大いに参考しながら、授業を進めた。

②人材養成:第10日目に「こうべを楽しもう」についての活用というテーマの講座を行ったが、「こうべを楽しもう」と「カリキュラム案」との関係についてをその主な内容とした。

③教材作成:「カリキュラム案」との関係性を明らかにしながら、「こうべを楽しもう改訂版」に反映させた。(別紙:カリキュラム案との対応表)

(4) 地域の関係者との連携による効果、成果等

①日本語教室においては、兵庫県、兵庫県教育委員会、神戸市、こうべ市教育委員会の後援を得た。特に(公財)神戸国際交流協力センターとの連携により、学習者募集、会場の優先的借用を得た。

②人材養成においては、兵庫県、兵庫県教育委員会、神戸市、神戸市教育委員会の後援を得、特に兵庫県教育委員会にはMLを通し受講生募集のために公報をしてもらった。

③教材作成においては、神戸市長室国際交流推進部および(公財)神戸国際交流センターの協力により「こうべを楽しもう改訂版」を作成する事ができた。

以上の事業について、「ひょうご日本語ネット」の定例会で報告し事業内容の助言や協力を得た。

(5) 改善点、今後の課題について

①日本語教室:学習希望者に本事業の趣旨(学習者の自律能力を活用した自主的な学習活動をすすめる)を募集時に徹底することが今後の課題である。

②人材養成:「カリキュラム案」に内容やその趣旨を講座内容にもっと反映する事が今後の課題である。

③教材作成:「こうべを楽しもう改訂版」を神戸市内の地域日本語教室や日本語学習者にいかに活用してもらうかが今後の課題である。

(6) その他参考資料 アンケート等を本報告書に添付してください。

① 日本語教室①② 感想文

② 人材養成 アンケート集計結果

以上を添付します

日本語教室「神戸を楽しもう」学習者募集

外国人向けのガイドブック「神戸を楽しもう」を使って、生活に必要な日本語を楽しく学びます。そして自ら学び行動できる「自己主導型学習」を目指します。神戸市の施設などの見学も予定しています。



主催：兵庫日本語ボランティアネットワーク

共催：(公財) 神戸国際協力交流センター

後援：兵庫県 兵庫県教育委員会 神戸市 神戸市教育委員会 (予定)

期間：初級 9月3日～12月10日の毎週火曜日

中上級 9月4日～12月11日の毎週水曜日

時間：初級・中上級とも 午前10時～12時

場所：神戸国際協力交流センター (KIC) 会議室 TEL(078)291-0641

(中央区浜辺通5-1-14 神戸商工貿易センタービル 2Fに移転しています)

アクセス：JR・阪神・阪急・地下鉄三宮から南へ徒歩15分

ポートライナー貿易センタービル駅から徒歩2分(裏面に地図)

定員：初級 15人 中上級 15人

費用：無料

申し込み資格：ひらがな・カタカナが読める方(日本国籍でもいいです)

申し込み方法：裏面の申込用紙に名前、住所、電話番号、国籍、母語、それに日本語学習歴を書いてEメール、FAX、はがきで送ってください。

申し込み先：Eメール：hvn.kobe@gmail.com FAX：078-857-6027

はがき：〒658-0032神戸市東灘区向洋町中1-4-123-505 延原あて

締め切り：8月20日(火)

問い合わせ：メールか電話(090-5162-8315 延原)で

裏面へ



Guidelines for Applicants in Japanese Language Classroom “Let’s Enjoy Kobe”

We help you to learn useful Japanese using “ Let’s Enjoy Kobe”. It is a guidebook of life in Kobe for foreigners. We also help you to set your goal by yourself and reach it on your own. We are planning to visit public facilities in Kobe.



- **Presented by** : Hyogo Nihongo Volunteer Network
- **Supported by** : Kobe International Center for Cooperation and Communication
- **Cooperated by** : Hyogo Prefectural Board of Education, Kobe Board of Education
- **Period** : Beginners Class : September 3 ~ December 10 (Every Tuesday)
Intermediate and Advanced Class : September 4 ~ December 11
(Every Wednesday)
- **Time** : 10:00a.m. ~ 12:00a.m. for both classes
- **Place** : Kobe International Center for Cooperation and Communication (KIC)
2F Meeting Room TEL(078)291-0641
(Cyuou-ku Hamabe-Dori 5-1-14
Kobe Commerce, Industry and Trade Center Building 2F)
- **Access** : 15 min. on foot from Sannomiya Station of JR, Hanshin, Hankyu,
Underground. 2 min. from Portliner Boueki Center Building Station
- **Capacity** : 15 people for each class • **Fee** : Free
- **Requirements for application**: You are required to read Hiragana and Katakana
(Japanese nationality is OK)
- **How to Apply** : Fill the Application Form on the back and send it
Email : hvn.kobe@gmail.com FAX : 078-857-6027
Postcard : 〒658-0032 Kobe-shi Higashinada-ku Kouyouchonaka 1-4-123-505
To Nobuhara
- **Closing Date** : August 20(Tues.)
- **Inquiry** : Email or Telephone (090-5162-8315 Nobuhara)

Place : Kobe Commerce, Industry and Trade Center Building 2F



..... Application Form

Name : _____ Nationality : _____

Mother Language : _____

Address : _____

Telephone Number : _____

Email Address : _____

How long have you studied Japanese? _____ Years _____ Months

Where are you studying Japanese? _____

平成 25 年度文化厅针对外国人的日本語事业

[乐在神户] 日本語教室 学员招募

学员将使用针对外国人的[乐在神户]使用手册，愉快的学习日常生活中所必需的日语。并且我们的目标是培养学员成为拥有自学能力的人。我们的课程中也包含了参观神户市公共机构的安排。



主办方：兵庫日本語志愿者网

协办方：（公財）神戸国际协力交流中心

赞助方：兵库县，兵库县教育委员会，神戸市，神戸市教育委员会

期间： 初级 9月3日～12月10日 每周星期二

中上级 9月4日～12月11日 每周星期三

时间：初级和中上级都是上午10点~12点

地点：神戸国际协力交流中心（KICC）会议室， 电话：（078）291-0641
（现已搬迁至中央区浜辺通5-1-14 神戸商工貿易センタービル2F）

交通工具：从JR，阪神、阪急，地下鉄の三宮站向南步行15分钟。

ポータライナー貿易センター站向南步行2分钟。

人数：初级 15人， 中上级 15人。

费用：免费。

申请资格：认识平假名和片假名（日本国籍也可以）。

申请方法：在背面的申请表上填写姓名，住址，电话号码，国籍，母语和日语学习履历，并通过电子邮件，传真或者明信片提交给我们。

申请地址：电子邮件 hvn.kobe@gmail.com

传真 078-857-6027

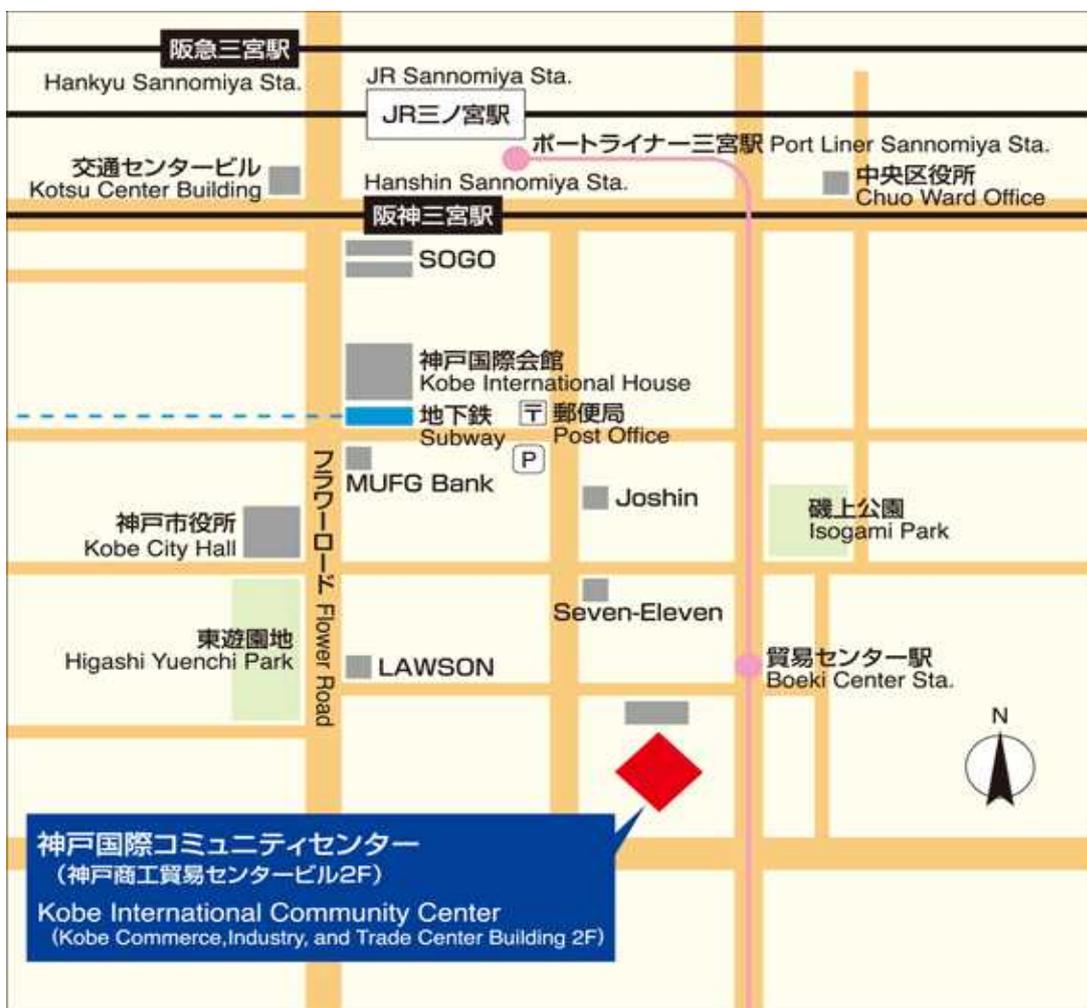
明信片 〒658-0032 神戸市東灘区向洋町中1-4-123-505 延原

截止日期：8月20日

咨询方式：邮件或者电话（090-5162-8315 延原・Nobuhara）

神戸国際協力交流中心（KICC）会議室，

（现已搬迁至中央区浜辺通 5-1-14 神戸商工貿易センタービル 2F）



----- 申请表 -----

姓名： 国籍： 母语：

住址：

电话：

电子邮件：

学习日本語多少年了？ 年 月

现在在什么地方学习日语？

일본어교실 [고베를 즐기자] 학습자 모집

외국인을 위한 가이드 북 [고베를 즐기자] 를 사용하여, 생활에 필요한 일본어를 즐겁게 배웁시다. 그리고 스스로 배워 행동가능한 [자기주도형 학습]을 목표로 배워봅시다. 고베시의 시설등의 견학도 예정하고 있습니다.



주최: 효고 일본어 보란티어 네트워크

공동주최: (공재) 고베국제협력교류센터

후원: 효고현 효고현교육위원회, 고베시 고베시교육위원회 (예정)

기간: 초급 9월 3일~ 12월 10일 매주 화요일

중상급 9월 4일~ 12월 11일 매주 수요일

시간: 초급 및 중상급 모두 오전 10시~12시

장소: 고베국제협력교류센터 (KIC) 회의실 TEL(078)291-0641

(주오구 하마베도리 5-1-14 고베상공무역센터 빌딩 2 층으로 이전했습니다.)

오시는 길: JR·한신·한큐·지하철 산노미야에서 남쪽으로 도보 15분

포토라이나 무역센터빌딩역에서 남쪽으로 도보 2분

(뒷면의 지도)

정원: 초급 15명 , 중상급 15명

비용: 무료

신청자격: 히라가나, 가타카나를 읽을 수 있는 분 (일본국적이라도 가능)

신청방법: 뒷면의 신청용지에 이름, 주소, 전화번호, 국적, 모국어, 일본어학습력을 적어 이메일, 팩스, 엽서등의 방법으로 보내주세요.

접수처: 이메일 hvn.kobe@gmail.com

팩스 : 078-857-6027

엽서 : 〒658-0032 こうべしひがしなだくこうようちゅうなか神戸市東灘区向洋町中1-4-123-505 のほはら 延原 앞

마감: 8월 20일 (화)

문의: 메일이나 전화 (090-5162-8315 のほはら 延原노부하라에게)

뒷면



～退職教員など対象日本語教育指導者養成講座～

受講者募集要項

日本で生活するニューカマーの「外国」人の多くは学校で日本語を学ぶ機会がありません。これらの人々が日本社会で成人として自立した生活を営んでいくためには、生活の中で主体的に日本語を学んでいかななくてはなりません。このような学習を自己主導型学習と言いますが、日本語学習支援活動は単に日本語を教えるのではなく、学習者が自分に合った学習プログラムをデザインし、それを実行していけるように、どのように自己主導型学習を支えるかを考える必要があります。本講座では、受講者の皆さんに自己主導型学習とそれを支える言語学習アドバイジングの方法について学んでいただきます。

日時：2013年11月9日（土）～2014年2月8日（土）13:30～16:30（年末年始を除く土曜日、全11回）

場所：コムスタこうべ神戸市生涯学習支援センター（アクセスガイドをご参照ください）

内容：（講師は変更する場合があります）

11月9日	オリエンテーション 日本語学習者の学習動機	青木直子（大阪大学大学院） 八木真奈美（駿河台大学）
11月16日	自己主導型学習とは何か	吉田晃高（近大姫路大学）
11月30日	言語学習アドバイジングとは何か	小林浩明（北九州市立大学）
12月7日	アドバイジングの言葉	小林浩明（北九州市立大学）
12月14日	目標設定	吉田晃高（近大姫路大学）
12月21日	自己主導型学習に使えるリソース	青木直子（大阪大学大学院） 麻子軒（大阪大学大学院生）
1月11日	学習活動のレポーター	青木直子（大阪大学大学院） 欧麗賢（大阪大学大学院生）
1月18日	学習計画を立てる	尾形文（HNVN）
1月25日	自己主導型学習の取り入れ方（1）『日本語ポートフォリオ』を壊す	吉田晃高（近大姫路大学）
2月1日	自己主導型学習の取り入れ方（2）「生活者としての外国人」に対するカリキュラム案	尾形文（HNVN）
2月8日	自己主導型学習の取り入れ方（3）子どもたちの自己主導型学習 + 修了式	長嶋昭親（HNVN）

兵庫日本語ボランティアネットワーク＝HNVN

受講資格：以下の1または2、および3の条件を満たす方。

1. 教職経験があり本講座修了後、日本語学習支援活動に携わることを目指す方。（校種、教科は問いません）
2. 日本語学習支援の経験が2年以上あり、本講座修了後も引き続き日本語学習支援活動に携わる予定の方。
3. 本講座の主旨を理解し、今後の日本語学習支援活動に生かす意志のある方。

定員：25名（応募者多数の場合、厳正な抽選で受講生を決定いたします）

受講料：無料

申し込み方法：下記の申込書に必要事項を記入し、以下へファックスまたはメールでお送りください。

Fax: 078-732-5390（高橋） hnv.n.kobe@gmail.com

申し込み締め切り：10月31日（木）

主催：兵庫日本語ボランティアネットワーク

後援：兵庫県、神戸市、兵庫県教育委員会、神戸市教育委員会

平成25年度文化庁日本語教育事業プログラムA

日本語教室①初級クラス

学習者の振り返りシートより

初級クラス 振り返りシート

- ① いろいろことばをべんきょうしました。ありがとうございました。
- ② 先生たちはしんせつでした。
- ③ よこにせんせいはよかったです。(補助者のことと思います)
- ④ かいもの、しょうぼうしょへいきました。いろいろな体験はよかったです。
- ⑤ 先生はわたしたちに勉強させました。よかったです。(自分で調べてテーマを選んでもらったことを指していると思います。)
- ⑥ いろいろなたくさん勉強しました。かいもの、消防署へ行きました。よかったです。このメソッドはいいと思います。

日本語教室②中上級クラス

学習者からの感想

以下、学習者の記述を転記

- この日本語教室は私にとって役にたつました。良かったです。先生はやさしくてくれてありがとうございました。機会があれば参加したいです。
- 三ヶ月間の「日本語頑張ろう＝日本語教室②」の授業で、勉強しました。今考えると楽しくて、参加してよかったと思いました。初めての授業は普通の教室のやり方と違って少し慣れなかったもので、三回目の時、辞めようかなと迷ってました。でも先生は最初の授業で、皆に頑張っ、普通の日本語の教室の教え方が違うけど、毎回来てから、楽しく感じると言ってくるので、頑張っ参加をしました。先生ありがとうございます。
- 好き — 私が一番好きなのは発表です。それで宿題も役に立ちました。
やってほしい — 机を皆の顔見えるようにUの形でしたら。生活に作っている言葉(例：看板の言葉)。読解練習
- このクラスで日本語を習いました。本当に楽しかったです。私は一番欲しいことが日常会話が上手になります。いろいろな場合の会話方を勉強したいんです。会話の文法の教えて、練習して欲しいです。よろしくをお願いします。
- この教室のお世話をしていただき、楽しかったです。本当にありがとうございました。このレッスンは私に役立つと思っ、すごく勉強しました。また、このような教室を

参加するようと思います。

- あっという間、三か月の授業が終わりました。この三か月間、先生たちにいろいろ教えてくれました。すごく勉強になりました。特に他の国の人、自分と日本語のレベルが違う人とのコミュニケーションができることになって、“よかったな！”と思いました。日本語のべんきょうは自分今まで知っている以外もいろいろ方法あると勉強になりました。私にとって、見る、読む、書く以外、話すチャンスがすくないですから、いつも人の前に、日本語を話すことが恥ずかしいと思っているけど、これからボランティア先生に私はできるだけ多く話すように頑張りたいと思います。先生ありがとうございます。これからもよろしく願いいたします！
- 文法をいっぱいいれてほしかった。教科書やプリントがあったらよかった。発表はよかった。準備の期間も勉強になった。学校の勉強以外の日本語の知識が勉強したいことと、日本人と話があまり出来ないの、この教室で友だちができたらいいなと思って来ました。
- 途中でやめようと思った。日本語レベルが違うので、発表の準備などをするとき少しイライラした。最初の一ヶ月はダラダラした感じで長く感じた。発表は勉強になった。
- 日本語の読む練習がほしかった。読んで意味も教えてほしかった。自分でやることの大切さがわかった。
- 自分のレベルより高かったの、発表や作文などの準備が大変だった。教科書やプリントなどがなかったので、予習や復習などができないことが不安だった。授業の最初にきょうの文法や授業の内容を教えて、例えばをたくさん教えてほしかった。「日本に望むこと」の発表の時、私と意見が違う人に説明できなかつたことが悔しかった。

平成 25 年度文化庁生活者としての「外国」人に対する日本語教育事業「日本語教育指導者養成講座」

アンケート

実施日：平成 26 年 2 月 8 日 最終日

対象者：23 名 / 修了生 27 名

1. この講座をどこで知りましたか。

- a. 学校で 4 b. 兵庫日本語ボランティアネットワークの案内で 3 c. 知人から 1
d. 地域の日本語教室で 2
e. その他 12 (・職場の回覧で、(公財)神戸市国際交流協会の案内メール 3、新聞か広報誌で
インターネットで 2、神戸新聞で 5)

2. 講座について

(1) 内容について

- a. よかった 10 b. まあまあよかった 10
c. あまりよくなかった 10 d. 全然よくなかった その他 1

理由・意見

- ・ 知らなかった事ばかり教えていただきました。最新のやり方や自分が教えている時に気づけなかった点、問題点を知り、本当に勉強になりました。特に日本語ポートフォリオ。
- ・ 最初は具体的な答えのないまま毎日講座が終わるので、何か不燃焼を拭えませんでした。多少日本語のボランティアの経験から感じていることから確信できました。相手の目的、希望、学習計画をよく理解した上で自己主導型でいくこと。それらしき方法で実際にボランティアで教えました。それは自分のわずかなボランティアの経験から最適だとは思っていましたがそれが更に体系的に客観的に講座で勉強できてよかったです。さらに豊富は日本語指導のリソースなどガラ系の私に多くの刺激を与えてくれました。
- ・ 目的や考え方など導入部分から実際に使えるリソース、具体的なサポート方法など一連の知識が身についたように思います。
- ・ 自己主導型学習を学ぶ事ができたので。
- ・ 予想していた内容とは違っていました。「退職教員」ではありますが、日本語ボランティア経験は全くなく講座の内容は経験者向けだと感じました。グループ学習は楽しい反面初心者ばかりだと考える内容が浅いのではと思いました。
- ・ 学習者主体の教育方法を学べたことと実際の講座の中で自分も体験できた。
- ・ 実際に使えそうにない。その中でも尾形さんの話は役に立ちそう。
- ・ 我々母語のわからないものが、「学習者と密にして」といってもそれは考えられないし、実際の学習の中で、今の私の知識からリソースを学習者に選んでもらい、そのアドバイスをすることは無理です、自己主導型学習は理想と思えます。
- ・ “自己主導型学習”とは？に的を絞るのに講座回数の半ばすぎまでかかった。
- ・ 文化の違い、価値観の違いから起こる諸所の問題についても取り上げて欲しかった。
- ・ 「コーチング」「自己主導型」について理解が深まったのでよかった。今後に生かせると思う。
- ・ 自己主導型学習という概念を知らなかったなので。
- ・ 外国人学習者についての認識が分かりました。“学習者主導型”というスタイルを理解で

きた事。

- ・ ポートフォリオの使い方、新しいスマホやインターネットの情報の得かたなど。

(2) 期間 (3時間×11回) について

- a. 短かった 1 b. ちょうどよかった 13 c. 長すぎる 8

理由、意見：

- ・ 座学やグループ協議はこれくらいで、あとは実践かと思います。
- ・ 学習内容からいえば、もう少し短くてよいのではないかと思いました。個人的には他の学習会とバッティングしていました。これ以上今まで続けられている学習会を休むことは出来ない状況に陥っていましたので。
- ・ (1)の理由からかもしれませんが、「自己主導学習」の一方が印象に残りました。他の野内容があれば・・・。
- ・ 今の私のボランティアの中に何か抛りどころが使える材料はないかと探しました。深く教えていただいたので、一コマコマ学習に使わせていただきます。
- ・ 自己主導型学習に的を絞る事が出来ればもっと多くのことが学べたと思う。
- ・ 理論的なことはいいので、あくまで実践的なことに、具体的なことに集中して欲しい。
- ・ もう少しコンパクトにしても講座の主旨は伝わる。
- ・ 10日以内がよい

(3) 講師・スタッフについて

- a. よかった 14 b. まあまあよかった 12
c. あまりよくなかった 1 e. 全然よくなかった

理由・意見

- ・ 素晴らしい先生方でした。
- ・ 黒板にタイトルを書かれていましたが、もう少し丁寧にきちんと書いて欲しかったです。雑でした。
- ・ 講師方がそれぞれの専門分野を生かして講義されたのがよかったです。レジメの準備や復習用教材の提供などスタッフの皆様に感謝いたします。
- ・ 講師の皆さん全員熱心でした。
- ・ 遠いところから熱心に講義していただき感謝しています。
- ・ お世話下さり、本当にありがとうございました。前の時間のレジメをいただけたのは役立ちます。
- ・ 学習者の母語のポートフォリオが有効なのに、それを飛ばしてポートフォリオの使用はなかなか理解できなかった。
- ・ 連携がいまひとつの感がした (わかりやすかったのは尾形さん)
- ・ 外国人の方の講師・・・とてもよかったですと思います。
- ・ よかったと思う方とそうでない方がおられました。麻さんは話が上手で、本やスマホなどの具体物も多く用意してくださって大変よかったです。(あと略)
- ・ 皆さんの熱意を感じました。

- ・ 専門性の高い先生方のお話を身近に聞けてかなりお得感がありました（しかも楽しく）

3. 講座を受けて

(1) 自己主導型学習について

- a. よくわかった 11 b. まあまあわかった 11
c. あまりわからなかった 3 d. 全然分からなかった 1

理由・意見

- ・ これは本当に目からうろこでした。
- ・ 教えてはいけない、自ら学ぶように指導する事であると認識できてよかったです。
- ・ 日本語教育だけでなく他の教育活動に広く応用できる手法と思いました（自己啓発学習にも使えます）。
- ・ 大切さは分かりましたが、自分に今できることは何なのかはつかめていません。
- ・ 1回目、2回目は手探り状態でわからないまま終えましたが、後半になるとよく理解できるようになりました。
- ・ ある程度日本語の基礎が理解できた人には役立ちそう。
- ・ 自己主導型学習が重要とは思われるが、実際の学習には難しい（わからなかったです）
- ・ 自己主導型学習とはなにか、その方法は？自分は“方式”にこだわりすぎた。
- ・ 現実はいくまで、相手方の個人的条件によって違うと思うので、自己主導型学習にもっていきけるように今後努力したいと思います。
- ・ 講座のつながりが・・・それは講師の方が交替されるので・・・。
- ・ 共感できるか疑問もある。塾のカリスマ教師による塾生の学力が現実に向上している点を考えると、特定の能力取得のみ取れば、指導者主導が効果的と思われる。したがって、一定レベルまでは指導者主導にし、それ以上を自己主導型にするのがよいのでは、指導者主導は学習者の自主性を妨げになることに注意が必要であるが。
- ・ 説明の通りと思うが、結局はケースバイケースで各自が独自に取り組まざるを得ないと思う。
- ・ 自分なりに今後の活動に活用していこうと思っています。

(2) ボランティアの経験のない方が多かったのですが、日本語学習支援法の輪郭が

- a. まあまあわかった 11 b. 少しわかった 8
c. あまりわからなかった 3 d. 全然分からなかった 1

理由、意見：

- ・ ボランティアの経験はありませんが、輪郭は充分理解できたと思います。また経験のない人でも、講義されておられました。
- ・ 実際には見学に行っただけで自分ではボランティアをしたことがありませんでした。唯、支援者の大部分は自己主導型学習をされてはいないと思います。
- ・ どんな教科書が使われているかなど基本的なことがわかっていなしなので。
- ・ 現実と理想のギャップが大きいので最後まで落ち込んでいます。
- ・ 支援法の一部しか話されていない。

- ・ 生活支援の一要素なのかと思った。
- ・ ボランティア主導を修正しなければならないと思った
- ・ 実際にされている方の声と比べることができれば、リアルな様子も知りたかったです。

(3) 「外国」から来た児童生徒への支援法が

- a. よくわかった 4 b. まあまあわかった 10
c. あまりわからなかった 9 d. 全然わからなかった

理由・意見

- ・ すみません、参加していませんでした。
- ・ どうしても指導してしまう側の立場になりそうな気がしたり、そのほうがスムーズだったり・・・。
- ・ すみません、最終回休んだので分かりません。又の機会に勉強したいと思います。
- ・ 自己主導型学習は学習者が強い意欲をもっていることが前提と思います。意欲が高くない人もいと聞いていますが・・・。
- ・ どんな教科書が使われているかなど基本的なことがわかっていないので。
- ・ 具体的な事例を紹介してくださったので少し理解できました。
- ・ 具体的には不明な点が多いですが、心構えは少々わかりました。
- ・ 自己主導型学習とい講座趣旨と異なっていた。
- ・ 具体例がなかった。もう少し時間があつたらよかった。
- ・ 講義が1回だけだったのでしかも時間が短かったのも。
- ・ 児童の興味あることについて、一緒に遊びながら「学んでもらう」ような気がした。

4. これからのこと

(1)

- a. 学校や地域で日本語学習支援に関わっていきたい 15
b. 今は、関われないが、将来関わりたい 3
c. 決めていない 2
d. さらに研修を受けて考える 2
e. 関わりたくない

これからのこと及び全体を通じてのご感想・ご意見

- ・ 私は2月から体調を崩しまして、全部講習会を受けられなかったのですが、毎回とも勉強になりました。
- ・ 機会があれば是非関わりたいと思い参加しました。
- ・ この秋ぐらいまでまだ仕事が残っているのでその後は学校、地域に拘らずボランティアとして日本語学習に関わっていきたいと考えています。
- ・ 4月から地域で支援者として活動していきたい。
- ・ グループディスカッションの時間が多く、色々な人の考えを聞くことで学びが深まったと思います。しかし、私は席の移動をして色々な人に多く接したいと思っていたのですが、席が固定化してしまった感があり残念でした。今後は座席の工夫がなされることを

期待します。大変お世話になりました。充実した研修会に参加させていただきありがとうございました。

- 学校や地域で日本語学習支援に関わっていきたいですが、すぐにはできません。さらに研修を受けないと難しいかなあ？と迷っています。実際に活動してみないと分からない事かもしれませんが全く未知なので一度見学してみようと思います。
- これからも自分が信じる方法で学習者と接し共に学習していきたいと思いました。もちろん学習方法は同じでも常に少し下がって自己主導型学習の芽は持っておきたいと思いました。今通っているグループにこの自己主導型学習をPRすることはできそうにありません。
- 家族に介護が必要な子どもがおり、私もフルタイムで勤務を始めたため、ボランティアの出来る時間が出来た時に、是非、日本語学習支援に関わりたい。学校勤務なので勤務校で講習での自己主導型学習を取り入れたい。
- これかも学校や地域で日本語学習支援に関わっていきたい。
- こういう機会があることすら知らなかった中で受講できてよかったです。
- ワークショップが多すぎたように思います。講師の方々はとても優秀かつ魅力的なのでご自身の研究結果や実践例をもっと聞かせていただきたかったです。多くの講師の方々がいらしてくださり様々なお話しが聞けてよかったです。資料もたくさんいただいて勉強になりました。ありがとうございました。
- 自分の個人的「好意」で行うボランティアが日本語教育のプロ（何百時間も講習を受けて資格を持っている人）のやる気と仕事（生活）の場を奪う事になるのではないかと・・・、いまい少し見極めたい。
- もう少し現状について（体験や講演など）を通じて見聞を深めたいと思います。異文化コミュニケーションとして友人が出来れば楽しいと思います。

(2) 日本語養成講座を受講するならどのような内容のものを望みますか。

例えば・ボランティアの教室について・日本語の教え方や文法・教室に来る外国人についてなど。

- 指導法を具体的に知りたいです。大学で学んだだけなので。
- 文法の教え方
- 実際に外国の方と会い、話を聞いて見たり経験された方から聞いて見たりしたいです。
- 日本語教室での実習を組み入れた養成講座（一つのアイデアで実現は難しいとは思いますが）。
- 日本語の教授法について学びたいと思います。「学習」というものの基本を学ぶ事が出来ました。ありがとうございました感謝いたします。
- ボランティア教室の実際の様子について。日本語の教え方についてなど。
- ボランティアの教室等現場（教室）の容子をもっと知りえたらよいかと思います。
- 各NPOでの進め方の違い。
- 今までに2回、IとII受講しているので、今は何もないです。
- 日本語の文法（英語教師なので英文法は十分に理解しているが日本語の文法をあまり知

らない)

- 対象別のデモンストレーション（又はVTRでも）授業。
- 指導法を具体的に知りたいです。大学で学んだだけなので。
- 日本語教員の資格とはどういうものか知りたいと思っている。
- 外国の方、あるいは児童生徒の現状、抱える問題、必要な支援。
- 具体的、実践的な指導法。
- 講師の方ご自身の実践例。
- 本に書かれているような公式的なものではなく、現実の生活習慣、小、中、高での学習目的とか外国人が説明できるようなことを対象としたもの。中国、韓国、ベトナムなど主要な学習者の母国の習慣など。
- 日本語文法と教え方の差について。